

unicef 
for every child

危機の時代に 子どもの権利を 守るために

ユニセフ 活動の成果 2021





ブラジル・サンパウロにあるブリガデ
イロ・ガビアン・ペイショト州立学校
の生徒たち

紛争、気候変動、COVID-19 の 影響から子どもを守る

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大が始まって2年目を迎えた2021年、COVID-19や武力紛争、気候変動などの脅威が高まるなか、ユニセフは子どもの権利を守るため、パートナーとともに引き続き勢力的に活動しました。

COVID-19が子どもたちに与える悪影響（主に感染症対策の意図しない結果によるものですが）は明らかです。子どもの貧困が記録的に増加し、さまざまな局面で新たに1億人もの子どもたちが深刻な危機に直面しています。定期予防接種の進展が妨げられ、未接種の子どもたちが340万人増加しました。

また、前例のない教育の混乱により、多くの子どもたちが学習機会を奪われました。孤立し、不安が増大した子どもたちは心に深刻な打撃を受け、長い間、顧みられなかったメンタルヘルスの問題がさらに悪化しました。

新型コロナワクチンや新しい治療法によって、広くワクチン接種を受けた社会は暫定的にその活動を再開することができるようになりました。しかし、ワクチンの普及に格差があるため、感染拡大で深まっていた不平等はさらに深刻なものとなっています。少なくとも1回のワクチン接種を受けた人の割合は、高所得国では4人に3人なのに対し、低所得国ではわずか6人に1人です。

感染拡大の問題以外にも、アフガニスタン、エチオピア北部、ミャンマー、イエメンなどでは、紛争によって子どもの権利が著しく侵害されています。子どもとその家族が避難を余儀なくされており、人道支援のニーズが高まっています。

世界の子どもの約半数にあたる約10億人の子どもたちが、気候変動の影響によるリスクが極めて高い国で暮らしています。容赦なく進行する気候変動は、自然災害、水不足、食料不安、病気の発生を増加させ、

特に最も貧しく厳しい状況にある子どもたちの健康、幸福、安全を脅かしています。

紛争や気候変動の影響で厳しい状況にある地域の子どもたちのリスクはCOVID-19の感染拡大によっていっそう増大し、成長の機会はさらに奪われています。

ユニセフは、COVID-19、貧困、様々な危機が子どもたちに及ぼす影響を軽減するための活動を継続するとともに、最も疎外され、排除された子どもたちや地域に支援を届け、将来の衝撃に対する備えを進め、回復力を高めるための国のシステムを強化しました。こうした活動は、国連の機関を含む官、民、市民社会の強力なパートナーシップと、自発的な資金支援のおかげで実現することができました。

2021年に世界が直面した相互に関連した課題により、多国間の協調を再活性化させる必要があることがより鮮明になりました。国連制度がいっそう効果的で協調的な支援を各国に提供できるよう、ユニセフは、新しい社会的枠組みの構想に貢献しました。

いくつもの危機に直面しているにもかかわらず、今日の若い世代は、世界がより良い場所になりつつあると確信しています。2021年、ユニセフの「変わりゆく子ども時代（Changing Childhood）プロジェクト」が21カ国の2万人以上を対象に調査を行ったところ、若い人たちは不平等や気候危機に直面して絶望するのではなく、40歳以上の人たちと比べ、世界がよい方向へ向かっていることにより強い確信を持っていることがわかりました。

2021年、ユニセフは創設75周年を迎え、パートナー、支援者、子どもたちや若者たちとともに、子どもたちが生き、成長し、おとなとして健康で実りある日々を過ごせるよう、そして最も疎外され、弱い立場にある人々を守るために新たな決意で取り組みます。

ユニセフ 2021 年 主な活動の成果



2021 年には 153 カ国で **483 件の新規および進行中の人道危機に対応** (2020 年には 153 カ国で 455 件)。

ユニセフは、COVAX ファシリティの調達コーディネーターの役割を担い、新型コロナウイルスワクチンの調達と輸送を主導しました。2021 年、COVAX は 144 カ国に 9 億 5,800 万回分 (寄付分ワクチンを含む) のワクチンを届けました。

「すべての新生児のための行動計画 (Every Newborn Action Plan)」の重点 50 カ国において、**少なくとも 4 回の妊婦健診を受けた女性の割合は、2016 年の 51% から 64% に増加し**、産後ケアを受けた女性の割合は 2016 年の 48% から 65% に増加しています。

国連人口基金 (UNFPA) との共同プログラムを通じ、760 万人の児童婚の危機にある思春期の女の子たちに**予防とケアのための支援を実施しました**。その数は 2017 年の 210 万人から増加しています。

拘禁されている子どもたちの解放を提唱し、政策の大幅な転換につなげました。COVID -19 のパンデミックが始まって以来、84 カ国で 4 万 5,000 人以上の子どもたちが拘禁から解放されました。





人道的状況におけるワクチン、教育、メンタルヘルス、水、気候、栄養、子どもの保護に関する世界的なアドボカシー活動を通じて、対象国の92%において**前向きな政策転換や行動を主導**しています。



■ 2018年から2021年にかけて、6,990万人への**安全な水と基本的な衛生設備（トイレ）の利用を拡大し**、また5,960万人への基本的な衛生設備（トイレ）の利用を拡大しました。

■ 移動を余儀なくされている子ども640万人および人道危機下にある子ども3,170万人を含む、**4,860万人の学校に通っていない子どもの教育を支援**しました。

■ COVID-19の感染拡大による支援サービスの中断にもかかわらず、従来より簡素化した地域密着型の手法によって、命を守るための**重度の消耗症の検査を2020年より9%多い1億5,400万人の子どもに実施**し、さらに2020年から10%増の約550万人の子どもを治療しました。

■ **発育障害やその他の栄養不良を防ぐためのサービスを提供**し、2020年より38%多い約3億3,600万人の子どもたちを支援しました。

■ 約11,150社のサプライヤーから**72億米ドルに相当する物資とサービス**を調達しました。

2030 年に向けた新たな展望

ユニセフ戦略計画 2022-2025

COVID-19 の感染拡大は、SDGs（持続可能な開発目標）のほとんどの進捗が軌道から外れつつあるときに起き、子どもたちのための進展を脅かし、根深い貧困を悪化させ、不平等と差別を増大させる世界的危機を助長しています。

2022 年、ユニセフは次の 4 カ年戦略計画に着手し、ユニセフのすべての国事務所、国別プログラム、ユニセフ協会に国際的な枠組みを示します。子どもたちの死亡率、貧困、脆弱性、ジェンダーの不平等、排除の根本原因に対処するために不可欠な制度改革に焦点を当てていきます。

このような制度改革を通じて、ワクチンの公平な供給、教育、メンタルヘルス、気候危機への対応について、これまで取り残されてきた人々に手を差し伸べ、革新的な進歩を遂げることができるのです。

ユニセフは、柔軟性の高い地域密着型の手法やデジタルの活用など、混乱した状況下でも支援サービスの提

供や国ごとのシステム強化の取り組みを継続していきけるプログラムの展開と進化をさらに推し進めていきます。2021 年には、ユニセフが COVID-19 の感染拡大前から取り組んでいたシステム強化への投資が、各国の停滞した進捗を回復させる上で決定的な違いをもたらしたことが明らかとなりました。

戦略計画で掲げた目標を達成するために、ユニセフは、分野を超えたパートナーとの広大で幅広いネットワーク、190 以上の国や地域における現地での存在感、そして活動現場でのエビデンス、調査、データに基づいた深い専門知識と強いリーダーシップといったこれまでに培った強みを活かしていきます。

しかし、ユニセフだけでそうしたことを遂行していくことはできません。他の関係機関・組織・団体と協力して、規模に応じた持続可能な変化を促進していきます。官公庁や民間企業、市民社会と地域組織、子どもや若者、そして国連の他の機関などの協力と関与が不可欠なのです。



アルメニアのベリシエン村にある幼稚園の園庭で、女の子と遊ぶユニセフの職員。ユニセフはパートナーと協力し、幼稚園の改修、改装、おもちゃや学習教材の整備を行っています

© UNICEF/UN0574897/Mahari

パートナーシップと資金調達

ユニセフが課題の複雑性に対応し、国家レベルで即応性のあるプログラムを構築するためには、柔軟で質の高い資金調達が不可欠です。

2018-2021年戦略計画全体では、通常予算（柔軟で用途を限定しない資金）の割合が大きいプログラム領域において、子どもたちのための進捗がより顕著に見られました。しかし、ユニセフの収入を全体的に見ると、用途を指定した資金が増加し、柔軟で予測可能な資金は減少しています。

2021年はユニセフの収入面においては良い結果が見られ、2018-2020年は2014-2017年と比較して全体で30%増加しました。しかし、記録的に増大した人道的ニーズにもかかわらず、人道支援資金の調達や、COVID-19対応で示されたような、変化する子どものニーズに組織が迅速かつ柔軟に適応する鍵となる通常予算やその他の柔軟な資金調達に課題が残りました。

2021年、公的部門の収入（政府、政府間機関、機関間協定からの収入）は3億9,300万米ドル増加し

（2020年比7%増）、総額60億米ドルを超えました。2021年に政府拠出金が最も多かったのは、アメリカ合衆国、ドイツ、欧州委員会、スウェーデン、日本でした。

民間部門の収入（ユニセフ協会、個人寄付者、非政府組織、財団からの収入）は、2020年から34%増加し、2021年には22億米ドルに達しました。

ユニセフの国内委員会である各地のユニセフ協会は、収入と影響力において大きな成果をもたらしています。2021年、各国ユニセフ協会は17億5,800万米ドルを生み出し、民間部門の総収入の84%、ユニセフの通常予算全体の約47%を占めました。またこれらの協会は、子どもの権利教育を通じて450万人以上の子どもたちを、子どもにやさしいまちづくり事業を通じて1,400万人の子どもたちを、さらに企業との関わりを通じて1億800万人以上の子どもたちを支援しました。

ユニセフの資金調達の詳細については、www.unicef.org/funding をご覧ください。

ワクチン保管用冷蔵庫の調達作業
を行うユニセフ物資供給センターの
職員



© UNICEF/UN0457826/Rami



© UNICEF/UN0541828/Satu



目標分野 1

すべての子どもが命を守られ、健全に発育すること



2020年には500万人、すなわち1日あたり13,800人の5歳未満児が死亡しました。



命を落とす危険性の高い栄養不良である**消耗症**に苦しむ子どもは5,000万人近くいます。この数字はCOVID-19の感染拡大による子どもたちへの栄養支援の取り組みや食生活に与える影響により、さらに900万人増加する可能性があります。

COVID-19は、子どもの生存、健康、成長、発達に関するあらゆる対策の進歩を阻みました。

予防可能な要因による5歳未満児の死亡数は、依然として受け入れがたい数字となっています。2010年以降停滞しているジフテリア・破傷風・百日咳（DTP3）の世界の予防接種率は、2019年の86%から2020年の83%へと低下しています。2000年以降、子どもの発育阻害は減少しているものの、消耗症は依然として高い水準を維持しており、さらに過体重の割合が上昇しているため、2030年までに目標を達成するためには軌道修正が必要です。

2021年、世界がCOVID-19との「闘い」から「共存」へと移行し始めたことに伴い、ユニセフも支援プログラムの調整を行いました。COVID-19の流行は、脆弱な保健制度がもたらす悲惨な結末と、保健分野への投資の重要性を浮き彫りにしました。

今後、弾力性のある保健制度の礎石として、またライフサイクルを通じて健康と福祉を促進するユニバーサル・ヘルスケア（市民全員に保健医療サービスおよび医療費補助を提供する保健プログラム）の鍵として、ユニセフはプライマリ・ヘルスケアの強化に取り組み、子どもたちが生き延びるだけでなく健やかに成長していけるよう見守っていきます。

主要な成果

「すべての新生児のための行動計画」の主要50カ国では、保健・医療施設での出産数が**3,890万件**に増加し、そのうち熟練した保健・医療従事者立ち会いのもとでの出産割合が80%に増加しました。

肺炎の罹患率の高い25カ国では、肺炎が疑われる**875万人**の子どもたちが抗生物質の投与を受けました。

ユニセフは、**約3億3,600万人**近い子どもたちに発育阻害やその他の栄養不良を防ぐためのサービスを提供し（2020年比38%増）、**6,740万人**の若者たちに貧血などの栄養不良を防ぐためのサービスや支援を行いました（2020年比91%増）。



© UNICEF/UN0550014/Dubourthoumieu



目標分野 2

すべての子どもが学ぶ機会を得ること



2021年9月までに、世界中の学齢期の子どもがCOVID-19関連の学校閉鎖により、**対面での学習時間を1兆8,000億時間失った**と推定され、長期的かつ不平等な社会・経済的影響が懸念されます。



低所得国および中所得国の10歳児の50%以上が、小学校卒業までに簡単な文章を読んで理解することができません。

2021年、COVID-19の流行により世界中の教育システムが停止し、学校閉鎖が世界的な学習危機を深刻化させました。ほとんどの国が生徒のために遠隔学習の機会を提供しましたが、その範囲や質は大きく異なり、対面学習の欠落を補うにはほど遠い状況でした。学校閉鎖の結果、現在の学齢期世代は生涯所得で17兆米ドルを失うリスクを抱えており、これは2020年に推定された損失10兆米ドルをはるかに上回る数字となっています。

主要な成果

学校に通っていない子どもたち4,860万人が教育を受けられるようになり、2016年からの累計は1億4,900万人となりました。その中には、避難を余儀なくされている子ども640万人と、人道危機下で暮らす子ども3,170万人が含まれています。

ユニセフが支援する能力開発プログラムに、91カ国で**3,300万人**の子どもたちが参加しました。

4,200万人の子どもたち（そのうち人道危機下で暮らす子どもは1,810万人）が学習教材を受け取りました。こうした支援を受けた子どもは2016年からの累計で1億3,700万人にのぼっています。



© UNICEF/UN0421355/Abdul



目標分野 3

すべての子どもが暴力や搾取から守られること



多くの国で、3人に2人以上の子どもが、養育者から暴力的なしつけを受けています。



年間1,200万人の女の子が18歳の誕生日をむかえる前に結婚しており、2030年までにさらに1億5,000万人以上の女の子が児童婚をさせられるリスクに直面しています。

数十年にわたる子どもの保護と福祉の向上は、出生登録の増加や児童婚や女性器切除の減少という成果をもたらしました。しかし、児童労働の割合は変わらず、増加の危機にさえ瀕しています。また、現在の予測ではCOVID-19の世界的流行がこれらに拍車をかけ、保護関連のSDGsに向けた進展がさらに危ぶまれることが指摘されています。

主要な成果

暴力を経験した129カ国の**440万人の子どもたち**が、保健、社会福祉、司法のサービスを受け、その数は2017年より80%増加しました。

対象者を絞った啓発キャンペーンなどの地域社会単位のメンタルヘルスおよび心理社会的支援は、111カ国で**840万人以上の子どもの若者**（2017年比170%増）と、97カ国で**360万人の親や養育者**に届けられました。

47カ国で**760万人の10代の女の子たち**が、特にアフリカ連合との地域連携や、国連人口基金（UNFPA）との児童婚を終わらせるための共同プログラムによる後押しを通じて、児童婚防止とケアのための支援を受けました。

2021年の大きな成果は、過去最大規模の拘禁状態にある子どもたちの解放です。COVID-19の世界的流行が始まって以来、**84カ国で4万5,000人を超える子どもたち**が解放されました。2021年、子どもにやさしい司法サービスは、81カ国で38万4,000人の子どもを支えました。



© UNICEF/UN206458/Wilander



目標分野 4

すべての子どもが安全で衛生的な環境で暮らすこと



世界では、気候変動の影響の「極めて高いリスク」を抱える国々に、世界の子どもたちの約半数にあたる10億人の子どもたちが暮らしています。



23億人の人々の家庭に石けんと水がなく、9億人の子どもたちが通う学校に石けんと水が備わっていません。また40%の保健・医療施設ではケアや治療を行う場所に手指衛生を実践するための設備が整っていません。

水と衛生分野では、大きな進展があったにもかかわらず、世界はSDG6を達成するのに苦慮し、すべての子どもとその家族が安全な水と衛生設備を利用する権利が満たされないままとなることが予測されます。2021年現在、36億人がいまだ安全な衛生設備を利用することができず、4分の1が安全に管理された水サービスを受けられず、3分の1が自宅に石けんを備えた手洗い設備をもたない状況です。

2018年から2021年にかけて、ユニセフは安全な飲料水へのアクセスを6,990万人に、基本的な衛生設備を5,960万人に、それぞれ6,000万人という目標に対して達成しましたが、これはこれまでで最も意欲的な目標設定およびその達成となりました。

主要な成果

目標の78カ国を上回る**106カ国**が、ユニセフの支援を受けて地域社会に根ざした手洗いプログラムを全国的に実施しました。

ユニセフの人道支援プログラムを通じて、**3,330万人**が飲料と衛生のための水サービスを、**840万人**が衛生サービスを利用できるようになりました。



© UNICEF/UN0547572/Mawa



目標分野 5

すべての子どもが人生において 公平な機会を得ること



現在、世界で 10 億人以上の子どもたちが、重要な権利の少なくとも 1 つを剥奪されています。



2021 年にユニセフが発表した 40 カ国以上の新しい推計によると、COVID-19 は、10 人に 1 人を占める世界の 2 億 4,000 万人の障がいのある子どもたちが直面する障壁をさらに高めています。

COVID-19 の流行より、新たに 1 億人の子どもたちが多次元の貧困に陥ったと推定されています。この危機は女性と女の子の脆弱性を著しく高め、2030 年までに 1 億人の児童婚が増加するという COVID-19 感染拡大前の予測に加え、さらに 1,000 万人の女の子が児童婚の危険にさらされることになりました。

主要な成果

ユニセフは **78 カ国** において子どもの貧困測定に関する能力構築を支援し、33 カ国から測定、分析、アドボカシーが子どもの貧困を削減する政策やプログラムにつながったという報告を受けました。

ユニセフが支援する現金給付支援プログラムを通じ、厳しい状況や人道的危機下にある 95 カ国で約 **1 億 3,300 万人** の子どもが支援を受けました。

2021 年、ユニセフは人道危機下も含め、障がい者インクルーシブな支援プログラムを通じて 148 カ国で **480 万人** 以上 (2020 年の 220 万人の倍以上) の障がいのある子どもたちに支援を届けました。



© UNICEF/UN0584703/Filipov

ジェンダーの平等



世界的に見ると、15歳から19歳の男子が教育、雇用、訓練の機会を得られていない割合は12%であるのに対し、同年齢の女の子が同様の機会を得られていない割合は22%となっています。

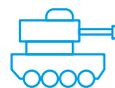


現在でも女性器切除（FGM）が行われている30カ国では、15歳から19歳の女の子の約3人に1人がFGMを受けさせられています。

月経衛生、女子教育、児童婚の防止、ジェンダーに対応した社会的保護、水と衛生、妊産婦保健といった分野での前進は、明確な指標と目標、そしてジェンダー問題に的を絞った資金調達で、意図的にその分野における結果を出すことの重要性を示しています。

しかし、ジェンダーに基づく暴力、有害な慣習、女の子の中等教育など他の分野は、資金が十分でなく、思うような進展を示せていません。これらの分野は、COVID-19の世界的流行の影響により、さらに後退のリスクにさらされています。

人道支援活動



世界では、4億2,600万人の子ども（約5人に1人）が紛争地域で暮らしています。こうした地域における紛争は激しさを増し、一般市民への被害も大きくなっており、とりわけ子どもたちに深刻な影響を与えています。



2021年半ば時点で、避難を強いられた8,240万人のうち3,500万人（42%）が18歳未満の子どもと推定され、多くは保護者がいないか、あるいは家族と離れ離れになった子どもたちです。

COVID-19の流行による未曾有の世界的危機の中、2021年には2億3,500万人が人道支援および保護を必要としました。その数は過去数十年で最も多く、2022年には2億7,400万人になると予測されています。紛争は依然として人道支援のニーズを増大させる主要な要因となっています。疾病の発生が増加し続け、気候変動や自然災害による異常気象が続き、特に暴力に悩まされている国々では、こうした問題が状況悪化にさらに追い打ちをかけています。

主要な成果

ユニセフは、2020年に153カ国で455件の人道危機に対応したのに対し、2021年には153カ国で**483件の新たに起こった、もしくは進行中の人道危機**への対応を行いました。